

やってみよう！中学生職場体験活動！

仙台市では仙台版キャリア教育として「仙台自分づくり教育」を推進しています。その一つとして、市内の様々な職場で中学生が「職場体験活動」を行っています。文化財課では向田文化財整理収蔵室や郡山遺跡調査事務所、仙台城跡二の丸事務所等で発掘調査や室内での整理作業など様々な体験活動をしています。



仙台城跡の発掘調査中。どんなものが見つかるかな？

約1300年前の瓦を水洗いしました。傷つけないよう丁寧に…。



遺物の梱包用具をつくっています。いろいろな仕事がありますね。

～ 職場体験をした生徒からの声 ～

- ・いろいろな種類の仕事があって驚きました。どの仕事もその先にいる人のことを考えて丁寧に、なおかつ効率的に作業をするために、常に考えることの大切さを学びました。
- ・将来自分がなりたい職業に就くためには、勉強をするのはもちろんのこと、今のうちにいろいろな経験をして、それを自分の力にしていく必要があると思いました。頑張りたいです。



文化財 イベントスケジュール

○第71回文化財展「平成の発掘調査」～まちのうつりかわりとともに～

日時：令和元年11月20日(水)～11月24日(日)

会場：せんだいメディアテーク

記念講演会 日 時 11月24日(日) 13:00～15:00

タイトル まちのうつりかわりとともに ～仙台と遺跡発掘調査～

講演者 長島栄一(仙台市教育委員会 文化財課長)

会場 せんだいメディアテーク 1階 特設ステージ

○「第九回城下町せんだい日本伝統文化フェア」

日時：令和2年1月11日(土) 11:00～16:00

内容：市内で活動する伝統文化団体による親子体験・交流事業

会場：せんだいメディアテーク 1階 オープンスクエア

事前申込み不要・入場無料

○「第33回民俗芸能のつどい」

日時：令和2年2月8日(土) 13:30開演(予定)

内容：市内外の民俗芸能の上演・解説

会場：日立システムズホール仙台(仙台市青年文化センター)

事前申込み不要・入場無料

出演：・石井の七福神と田植踊(福島県/国指定重要無形民俗文化財)

・早池峰(はやちね)神楽(大償(おおつぐない)神楽)(岩手県/ユネスコ無形文化遺産・国指定重要無形民俗文化財)

・秋保(あきう)の田植踊(馬場の田植踊)(宮城県/ユネスコ無形文化遺産・国指定重要無形民俗文化財)

基調講演 タイトル 「ユネスコ無形文化遺産と東北・仙台の民俗芸能」(仮)

講演者 笠原信男氏(東北歴史博物館 館長)



文化財 せんだい



No. 125

令和元年(2019年)11月発行

仙台市教育委員会文化財課

仙台市青葉区上杉一丁目5-12

上杉分庁舎 10階

〒980-0011 Tel:022-214-8893

祝 史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設 来館者3万人突破!

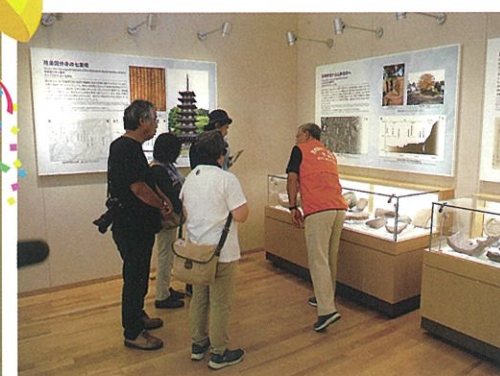


平成29年7月28日に開館した史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設が、令和元年9月2日に来館者3万人を突破しました。記念すべき3万人目の来館者は、山梨県からいらした今村さんご夫妻です。ご夫妻は友人の市川さんご夫妻とともに、松尾芭蕉ゆかりの地を訪ねる旅の途中、立ち寄られたということです。3万人達成の記念として、文化財課課長より記念品をお贈りしました。

開館から2年が過ぎ、たくさんの皆様にご来館いただき感謝申し上げます。これからも多くの皆様のご来館をお待ちしています。



来館3万人目の今村照廣さんご夫妻(左)とご友人の市川さんご夫妻(右)



館内展示をご見学いただきました

今村さん

「天平廻廊が気になって入館しました。ガイダンス施設は広く、とてもいい施設だと思います。来館者3万人目は一生の記念になりました。」

史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設とは

陸奥国分寺・国分尼寺の創建や、平安時代に起きた貞観地震から寺や地域が復興するまでの歴史等を、発掘調査出土品やパネルで紹介しています。

併設する「天平廻廊」は、当時の廻廊(廊下)を発掘調査の成果にもとづき伝統工法により再現しています。屋根瓦は陸奥国分尼寺跡から出土した瓦の文様を用いて再現し、鮮やかな朱色の柱は瓦に付着した顔料の分析を基に着色しています。



館内の様子

遺跡見学会など最新の文化財関連情報は仙台市文化財課のホームページで!
<https://www.city.sendai.jp/kurashi/manabu/kyoiku/inkai/bunkazai/>

第70回文化財展

令和元年5月14日から7月7日まで、東北電力グリーンプラザで第70回文化財展「文化財この一年」を開催しました。

今回の展示は、昨年に引き続き期間中に展示を入れ替え、前期と後期に分けて行いました。前期は太白区の郡山遺跡の調査で出土した土師器や、昨年度新たに遺跡として登録された青葉区の川内武家屋敷遺跡で出土した陶器など、平成30年度に仙台市内で行われた発掘調査の成果を中心に紹介しました。後期は昨年度新たに国の登録有形文化財となった青葉神社の建造物群や、ユネスコ無形文化遺産に登録されて10周年を迎えた「秋保の田植踊」の衣装などを展示しました。



前期展示の様子(郡山遺跡から出土した土器)



後期展示の様子

仙台城跡石垣クリーン大作戦を実施しました!

仙台藩初代藩主伊達政宗が築城した「仙台城」。史跡地内には大小あわせて約30か所に石垣が残っています。しかし、中には草木に隠れ、その存在に気づきにくい石垣もあります。そこで、「仙台市民の城」である仙台城跡を保護し、その価値を後世に伝え、本来の魅力を引き出すために市民の方々の力をお借りして石垣の清掃を行いました。作業は12名もの方々にご参加いただき、石の間からのびた草を取ったり、石に付着したコケをたわしで取り除いたり大変な作業にも笑顔で取り組んでいただきました。ご参加いただいた方々のおかげで、草木の陰でこれまで目立たなかった石垣が往時の姿を取り戻しました。仙台城跡にお越しの際は、是非これらの石垣の様子もご覧になってみてください!!



石垣の根元まで丁寧に



きれいになった石垣



作業に参加していただいた皆さん

今年度の主な発掘調査

今年度の主な発掘調査をお知らせします。調査の成果は次号で紹介します。

- ・長町駅東遺跡(太白区長町 6月~) 店舗建設に伴う調査
- ・山田上ノ台遺跡(太白区山田上ノ台町 10月) 範囲確認調査
- ・長楯城跡(太白区秋保 8月~10月) 市道拡幅に伴う調査
- ・陸奥国分寺跡(若林区木ノ下 11月~12月) 鐘楼改修に伴う調査
- ・郡山遺跡(太白区郡山 9月) 範囲確認調査
- ・安久東遺跡(太白区西中田 10月~) 共同住宅建設に伴う調査

天然記念物「東昌寺のマルミガヤ」をケーブルで保護



東昌寺(青葉区青葉町)境内に立つ国指定天然記念物・仙台市保存樹木の「東昌寺のマルミガヤ」は、樹齢約500年といわれ、樹高が約17.5mに達する古木です。通常のカヤは、実(種子)の形がアーモンドに似て先端が尖っていますが、マルミガヤは丸みを帯びた形となる変種です。根元の近くで幹が二又に分かれており、将来的にこの部分から幹を傷める懸念があったことから、今回、両側の幹を特殊なケーブルでつなぐことになりました。これにより、強風などで木が大きく揺れても、分かれた幹が互いに支え合い保護されることになります。

現在は約10mの高さよりも上の部分に、3段のケーブルが渡されていますが、目立たない色のため、少し見ただけでは気が付きにくいかもしれません。地域で大切にされてきたマルミガヤがこれからも良好に生育するように、市民の皆様のご協力をお願いいたします。なお、この事業は国・宮城県・仙台市による補助事業として実施されました。



マルミガヤの種子(左)と仮種皮(右)



幹の保護材とケーブル

「万葉集の時代」第2回

2019年5月1日、改元によって新しい時代が始まりました。「令和」は万葉集に由来しています。ここでは、万葉集の時代と関わりのある仙台市内の遺跡を、歌とともにご紹介いたします。

「天皇の御代榮むと 東なる陸奥山に 金花咲く。」(巻十八 4097)

「天皇の御代が栄えるしとして、東国の陸奥山に黄金の花が咲きました。」大伴家持
743年、時の聖武天皇は大仏造営の詔を發しました。当時、伝染病や飢饉に加え、貴族間の争いなど、世の中は混乱が続いていました。そこで仏教の力で世の中を治めようと、国ごとに国分寺と国分尼寺を建てることにしたのです。都には、その総国分寺としての東大寺に盧舎那大仏を造営しようと考えました。しかし、大仏造りが完成に近づいた頃、大仏に塗る金が入りできない事態となりました。海外からの輸入も検討していた749年に、陸奥国(宮城県遠田郡)から金が初めて産出し、大仏造りに献上されることになりました。天皇は、産金は神仏が大仏の造立を祝って与えてくれたものと考え、そのことを寿ぐ詔を發しました。その詔の中で、大伴家は代々天皇家によく尽くしたと称えられ、感激した大伴家持が感謝の意を込めて詠んだ歌がこの歌です。

◇陸奥国分寺跡(若林区木ノ下)

聖武天皇の詔をうけて、陸奥国に建てられた国分寺が若林区木ノ下にありました。現在、最北の国分寺として知られ、大正11年(1922)に国の史跡に指定されました。東西約240m、南北はそれ以上の長さの築地堀で囲まれた中に伽藍配置を有する大規模な寺院でした。伽藍の中軸線上に南から南大門・中門・金堂・講堂・僧坊を備え、中門と金堂を廻廊でつなぎ、金堂と講堂の間に鐘楼、西に経楼を、金堂の東には廻廊の巡る七重塔を配置する壮大なものでした。

しかし、国家の保護のもとに栄えた大寺院も、律令制の衰えとともに衰退し、中世にはわずかな施設が残るだけだったと言われていました。近世になると寺は伊達政宗によって再興され、講堂跡に薬師堂が建てられました。現在史跡地には、広場や園路が整備され、平成29年7月には史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設が新設されました。



陸奥国分寺跡にある仁王門